

くにしていしせき
国指定史跡

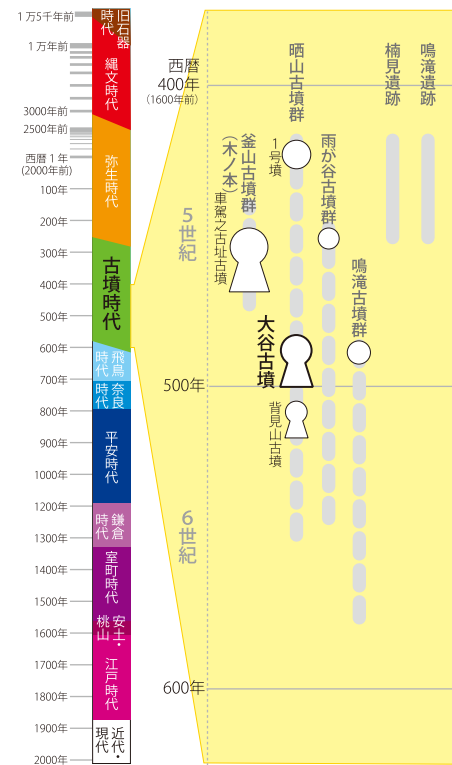
おおたにこふん 大谷古墳



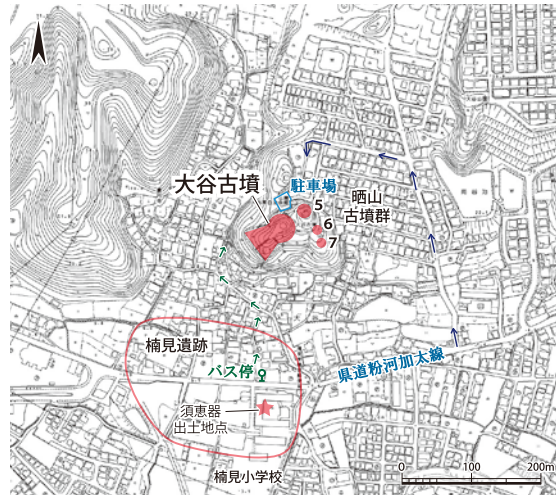
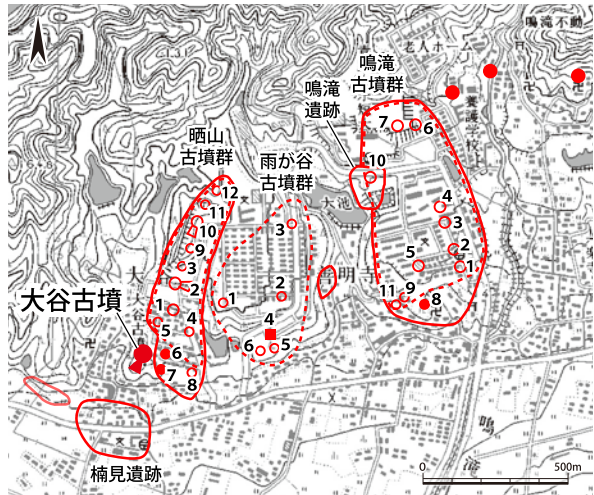
大谷古墳は
紀ノ川を見おろす
見晴らしのいいところ
にあるんだ!



めずらしい
馬のかぶとが
みつかったのね!



昔の紀ノ川は
今とちがって大谷古墳の
すぐ近くを流れて
いたんだよ。



大谷古墳とその時代

今からおよそ1400年～1700年前、各地に有力者の大きな墓がつくられた時代を、「古墳時代」といいます。墓の大きさ・形や、墓にそなえられた品物は、当時の社会のしくみや、その墓に葬られた人物がどのような地位にあったかをあらわしています。

古墳時代の中ごろの5世紀には、中国大陸・朝鮮半島から海をこえて日本列島につぎつぎと新しい文化が伝えられました。大谷古墳がある紀ノ川の河口近くは、交流の入口となり、海外の新しい文化との関わりが強い地域でした。

大谷古墳の東の鳴滝遺跡では、遠くにはこぶ品物などをおさめるような大きな倉庫がたくさんつくられました。南の楠見遺跡では、朝鮮半島との関わりがよい器が数多く見つかっています。また西の車駕之古墳は、日本でただ1つ、金製の勾玉が見つかった古墳で、墓の主の力の大きさをあらわしています。大谷古墳の主は、車駕之古墳のつぎの世代で、海をこえて大きな活やくをしたようです。

■大谷古墳の案内

- 交通：バス 南海和歌山市駅より川永団地行き(約15分)
- JR 和歌山駅より鳴滝団地行き(約15分)
- 楠見小学校前下車→徒歩5分
- 駐車場：古墳北側に車数台分の駐車場あり

■大谷古墳出土遺物の展示

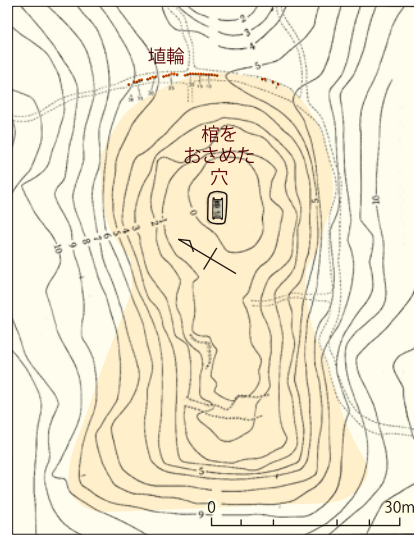
- 和歌山市立博物館：和歌山市湊本町3-2 TEL 073-423-0003
- 常設展示で一部を公開(随時入れ替え)



大谷古墳の形(左上が北。上が円形、下が四角形になっています)

古墳の形

大谷古墳は、紀ノ川の北岸で、和泉山脈のふもとにあります。円形と四角形をくみあわせた「前方後円墳」と呼ばれる形の墓で、長さは67m、高さは6~10mです。



大谷古墳の形(上からみた図)



まるい筒の形の埴輪

埴輪

古墳のはしには、古墳を区画するために、まるい筒の形をした埴輪がならべ立てられていました。



石の棺(九州からはこばれた凝灰岩という石を使っています)

石の棺

古墳の頂上には、石の棺をおさめた穴があり、その中から墓にそなえられた品物がみつかりました。

棺の中

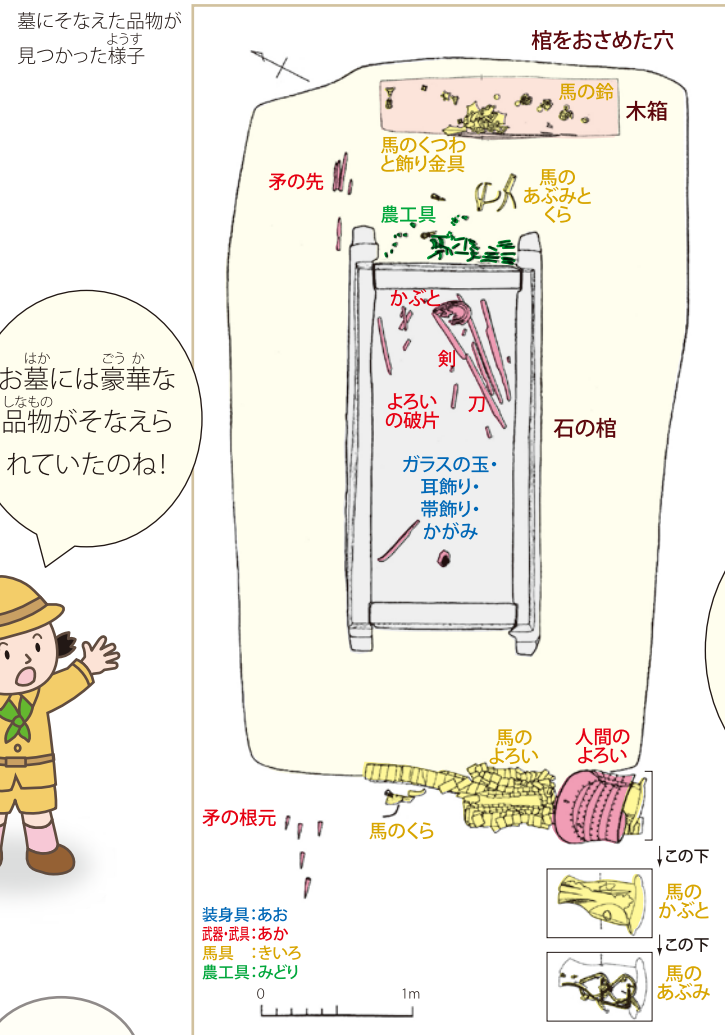
棺は、後の時代に掘りおこされて、中の品物の一部が盗まれていました。しかし、身を飾るガラスの玉、銀の耳飾り、龍の文様がある帯飾りなどがのこっていました。また20~30歳くらいの人間の歯が見つかりました。



身を飾るガラスの勾玉・小玉・緑色の石の管玉



龍の文様がある帯飾り(金色や銀色に光っています)



墓にそなえた品物がみつかった様子

お墓には豪華な品物がそなえられていたのね!



大谷古墳のものによく似ているよ。



馬のかぶと

馬のよろい

かぶととよろいをつけた馬の図(韓国の古墳を参考にしています)



くつわ

飾りをつけた馬の模型(大谷古墳を参考にしています)

市立博物館でみられるよ!

馬の飾り



棺の東には、木箱がおかれていたようです。箱はくさってなくなりましたが、中の品物はのこっていました。馬の口につけるくつわや、馬の体につける飾り金具がありました。飾り金具は、金メッキの青銅製で、美しい唐草文様があります。このような豪華な飾りは、当時の日本ではめずらしいものでした。



馬の口につけるくつわ(金色に光っています)



馬の体につけて垂れ下げる飾り金具

馬のかぶととよろい

棺の西からも、墓にそなえられた品物がまとまって見つかりました。そのなかで馬のかぶととよろいは、日本ではほかに1例ずつしかない、大変めずらしいものです。当時、中国や朝鮮半島で使われた装備をもちこんだもので、かざられた人しか手にいれることができませんでした。



馬のかぶととよろい

武器・武具

棺の中には、かぶととよろいの破片、刀、剣、矢じり、矢を入れて腰にさげる矢筒がありました。棺の西には、馬のかぶと・よろいとともに、人間のよろいがありました。棺の北には、矛がおかれていました。多くの武器がそなえられていたことから、墓の主は武士(ぶし)人(にん)のようです。



棺の中で見つかったかぶとと、棺の西で見つかったよろい